

一時帰郷の情報発信レポート

3

◆福島県

帰郷の際、避難先で入院している祖母のところへ寄ってみました。年々やせ細り、会話も困難な状態になってしまいました。縁も所縁もない避難先の地でひとり入院している祖母に話しかけ、うなづくことしかできま



2014年8月：震災から使われていない線路
せんでした。

お墓のある南相馬市は、以前のような活気は感じられませんでした。車の量は多く感じました。それでも小高区の方は自由に入れるようになったとはいえ、復興が進んでいるとは思えない状態でした。国道沿いには、だいぶ少なくなりましたが、未だに大破した店舗、田んぼには船や車、がれきが残っていました。まだまだ復興への道のりは長いと感じました。

原町区にある仮設住宅の近くに、屋根付きの遊具のある広場ができていて、子どもが結構遊びに来ていました。あのような施設は子どもがいる世帯にとってはとてもありがたいものだと感じました。双葉郡の復興よりも、南相馬市、特に小高区の復興を最優先にし、街の中に人の存在が感じられるようになってほしいと思いました。

◆福島県

10月に、主人のいる福島県いわき市に帰

りました。フェリーで帰省するのでなるべく被ばくリスクの少ない日本海側のルートを選びましたが、運転の苦手な私が“新潟からいわき市まで、高速道路ひとりで横断”をやつてのけるとは我ながら『たくましくなったなあ〜』と思います。

ちよっぴり老けた主人の出迎えと久しぶりの我が家は、少し落ち着きません。ちよつとだけよそよそしいのです。こんなところからも避難をしている時間の長さを感じました。まあ、すぐ慣れるんですけどね…。切ないです。

台風も迫っていましたので帰ってすぐ、気になる庭の手入れをしました。落ち葉を掃いて集めて…『ああっ!!この集めたのどうしよう…近くのゴミセンターで燃やすんだよね…』札幌では抵抗なくできる、掃いて集めて袋に詰めてごみ収集場に持っていく簡単なことが、放射能をばらまいている罪悪感に苛まれる作業となります。

近くのスーパーでは、前に来た時よりも広がった地産地消コーナー。親たちの「考えすぎだよ〜」の言葉にどうしても不安しなくなり、子供たちのパパと遊ぶ全開の笑顔を見ては悩み、パパの幸せな笑顔を見てはまた悩み、いわきに帰るか否かタイムリミットが近づく中でどうしよう…いやもう決めないと…と堂々巡り。

帰るたびに復興色の濃くなってゆくいわきを自分たちの目で見られたのは『どうすれば家族にとって一番いいのか』を探るために大変ありがたかったです。ご尽力くださった全ての人に感謝申し上げます。